（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　すきっぷADVANCE			
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日	～	令和8年2月25日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○従業者評価実施期間	令和8年2月25日	～	令和8年3月2日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体力づくりだけでなく、ルール理解や協調性、挑戦する気持ちを育む支援。	野球やスキーなどの運動支援を中心に、こどもたちが楽しみながら身体を動かす経験を通して、仲間と関わる経験や「できた」をその都度伝え、達成感や自信につながるような関わりを大切にしている。	こどもたちが仲間と協力する経験や、一人ひとりが自分のペースで挑戦し、「できた」という経験を積み重ねながら自信につなげていくことができるよう、支援の充実を図っていく。
2	さまざまな経験を積むことができる活動内容。	SSTや制作活動、運動支援など、静と動のバランスを意識し、メリハリを持った支援を提供している。また、企業訪問なども取り入れ、こどもたちが将来働くことについて考えるきっかけとなるような経験につながる支援を行っている。	こどもたちがさまざまな経験を積み重ねることができるよう、新しい活動を取り入れつつ、静と動の活動をバランスよく組み合わせていく。
3	保護者さまとの連携を大切にし、相談しやすい環境づくりに努めている。	日々の送迎時のやりとりや連絡ノートなどを活用し、こどもたちの様子を丁寧に伝えるよう心がけている。また、時間がない時などは、改めて時間を設け対応するなど、保護者さまが気軽に相談できるよう、話しやすい環境を大切にしている。	保護者さまとの情報共有の機会を大切にしながら、こどもたちの成長や課題について共通理解を深め、よりよい支援につなげていけるよう連携の充実を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が十分に確保できていない。	運動会や親子参加型行事、野球の紅白戦など、保護者同士が交流できる場を設けているものの、参加できないご家庭があるのも現状である。	こどもたちの活動を通じて保護者同士のつながりも深められるよう行事を開催していくとともに、多くのご家族に参加していただけるよう発信力を高めていく。
2	支援内容やこどもの状況についての情報共有が十分でない場面がある。	職員の勤務時間帯の違いにより、職員全体での情報共有の機会が限られていることが一因である。	今後は、勤務時間帯が異なる職員間でも共有できる方法を検討し、こどもたちの支援内容や状況について職員全体で共通理解をもてるよう努めていく。
3	地域との交流の機会が十分に確保できていない。	公園外出や、スキー支援など、地域の中で活動する機会はあるものの、すべてのこどもが参加できる機会にはなっていない。	今後は活動内容を工夫し、より多くのこどもが地域の中での経験を得られるよう検討していく。